

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ グリーンファイナンスフレームワーク

2024 年 3 月



目次

1. はじめに.....	3
1.1 MUFG 概要.....	3
1.2 MUFG Way	3
1.3 サステナビリティ経営	4
1.4 サステナビリティ推進体制.....	5
1.5 フレームワーク策定の目的	5
2. グリーンファイナンスフレームワーク	6
2.1 調達資金の使途.....	6
2.2 プロジェクトの評価および選定プロセス	6
2.3 調達資金の管理.....	7
2.4 レポーティング	7

1. はじめに

1.1 MUFG 概要

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ(以下、MUFG)は、経営統合を経て 2005 年 10 月 1 日に誕生した金融持株会社で、国内外で金融サービスを提供する日本最大の銀行持株会社であり、世界最大の金融機関の 1 つです。MUFG は、デジタルサービス事業本部、法人・リテール事業本部、コーポレートバンキング事業本部、グローバルコマーシャルバンキング事業本部、受託財産事業本部、グローバル CIB 事業本部、市場事業本部の 7 事業本部を擁しており、お客さまの幅広いニーズにお応えするため、グループ各社それぞれの強みを融合させた戦略の立案や施策の運営を行っています。

1.2 MUFG Way

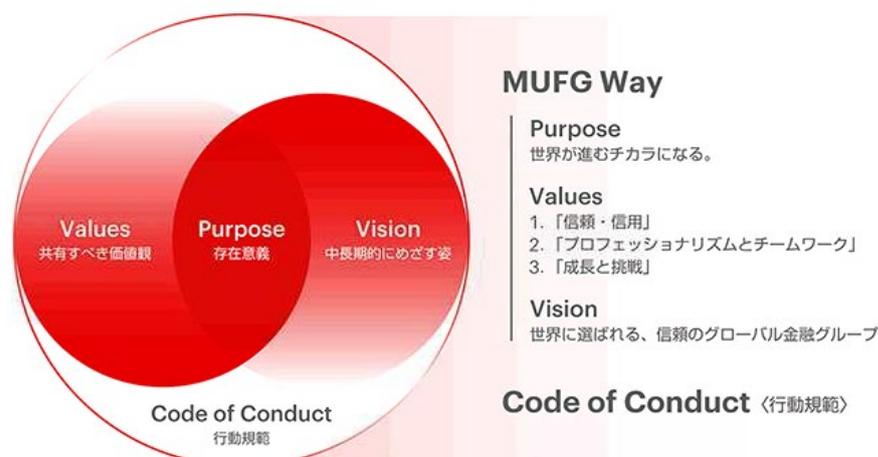
MUFG Way は、MUFG が経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢であり、全ての活動の指針とするものです。

経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全役職員の精神支柱として、諸活動の基本方針とします。

存在意義=Purpose は、「世界が進むチカラになる。」。共有すべき価値観=Values は、グループとしてさらなる成長を遂げ、お客さま・社会へ貢献し続けるために。MUFG は以下のことを大切に、実践していきます。

1. 「信頼・信用」(Integrity and Responsibility)
2. 「プロフェッショナリズムとチームワーク」(Professionalism and Teamwork)
3. 「成長と挑戦」(Challenge Ourselves to Grow)

また、中長期的にめざす姿=Vision は「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」と掲げています。



1.3 サステナビリティ経営

「持続可能な環境・社会が MUFG の持続的成長の大前提であるとの考えのもと、環境・社会課題の解決と MUFG の経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組む」ことが、MUFG のサステナビリティ経営です。

MUFG は環境・社会課題の解決に向けて、2019 年度から 2030 年度までに累計 35 兆円の実行をめざすサステナブルファイナンス目標を設定(うち環境分野 18 兆円)しています。2023 年度中間期までの累計実行額は 27.7 兆円(うち、環境分野で 10.4 兆円)と順調に推移しています。

また、MUFG カーボンニュートラル宣言^{*1}を策定しており、2050 年までに投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量のネットゼロ、および 2030 年までに当社自らの温室効果ガス排出量のネットゼロを目指し、様々な取り組みを進めています。また、MUFG は 2021 年 4 月に国連環境計画金融イニシアティブ(UNEP-FI)が主催し、世界 43 の銀行で発足した、2050 年までの投融資ポートフォリオにおける温室効果ガス排出量ネットゼロを目指す民間金融機関のアライアンス「Net Zero Banking Alliance(NZBA)」に、2021 年 6 月に国内金融機関として最初に加盟しました。2024 年 1 月 31 日時点で、142 社の金融機関が加盟しています。

さらに、MUFG は、金融機関としての社会的責任、国際社会からの要請に応え、持続可能な社会の実現に貢献するため、CDP(旧:カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)やTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)等のさまざまなイニシアティブへ参加・賛同しています^{*2}。

¹ MUFG は日本の地域特性/脱炭素化への道筋を「MUFG トランジション白書 1.0」として発刊し、産業界・政府機関と連携した政策提言を実施。さらに 2023 年 9 月、白書 1.0 を基に様々なステークホルダーからの意見や足元の国際情勢を踏まえ、グローバル社会から見た日本のトランジション計画の透明性を高める観点で「MUFG トランジション白書 2023(白書 2.0)」を作成し公表。白書 2.0 は、日本の「電力と熱源」のカーボンニュートラルを進めていく上で重要となる技術・サプライチェーンを一覧にし、また、2022 年度からの日本のカーボンニュートラル施策の進捗を総括することで、日本の取り組みに対する「投資予見性」を高めていく施策に繋げて参ります。

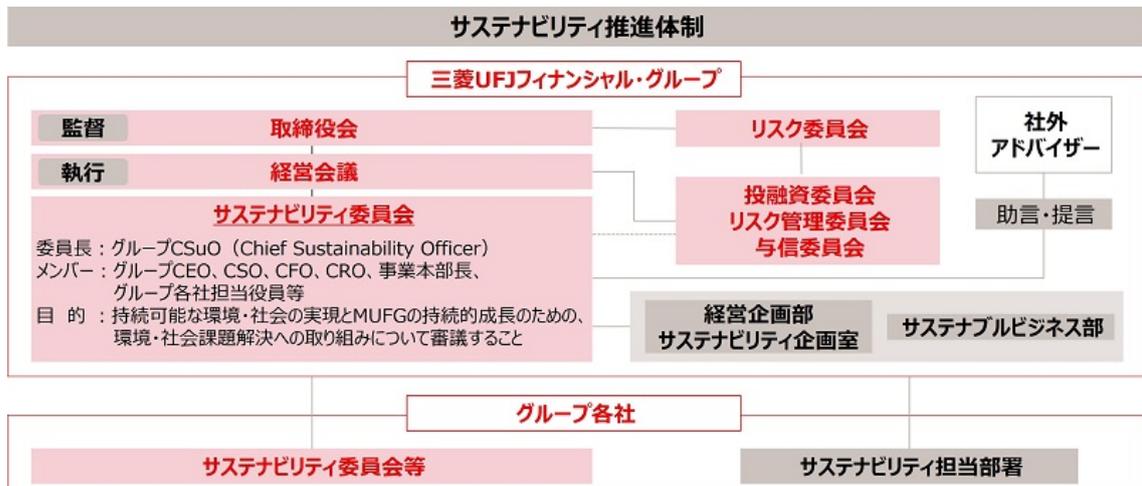
² MUFG が参加・賛同しているイニシアティブ一覧は以下をご参照ください。

<https://www.mufg.jp/csr/initiatives/index.html>

1.4 サステナビリティ推進体制

MUFG は、取締役会の監督のもと、「サステナビリティ委員会」を中心としたサステナビリティ推進体制を構築しています。本委員会は、サステナビリティの取り組み全般について責任を負うグループ CSuO (Chief Sustainability Officer) が委員長を務めています。CSuO は、経営企画・戦略担当であるグループ CSO (Chief Strategy Officer) のもと、経営戦略と一体でサステナビリティの取り組みを推進しています。

MUFG は、サステナビリティ委員会を原則年 1 回以上開催し、サステナビリティへの取り組み状況の確認と審議を行い、その内容を経営会議および取締役会に付議・報告し、取締役会の監督を受けています。また、サステナビリティに関する課題やリスクについて、常時専門家からの意見聴取を可能にするため、3 名の社外アドバイザーを招聘しており、取締役会メンバーと意見交換を行い、専門的立場からの助言・提言を MUFG のサステナビリティへの取り組みに活かしています。



1.5 フレームワーク策定の目的

資本市場を通じて、持続可能な環境・社会の実現に貢献することを目指す取り組みを強化することを目的として、MUFG は 2016 年に初めてグリーンボンドフレームワークを策定しております。以降、現在に至るまでフレームワークの改定を経ながら、2020 年 9 月までにグリーンボンドを 7 明細、ソーシャルボンドを 1 明細、サステナビリティボンドを 3 明細発行しております（発行総額は 4,900 百万米ドル相当）。

今回、MUFG 本社および三菱 UFJ 銀行本館を建て替え、「MUFG 本館」を建設することに決定しました。「MUFG 本館」の建設資金を調達することを目的に「グリーンファイナンスフレームワーク」（以下、本フレームワーク）を策定することに致しました。

「MUFG 本館」は、「世界が進むチカラになる。」というパーパス（存在意義）のもと、全てのステークホルダーに対し、開かれ、つながることで「MUFG の象徴」となることを目指しています。MUFG は、本フレームワークに基づくグリーンファイナンスの実行を通じ、グループ一体となってお客さまや地域・社会をはじめとする全てのステークホルダーに貢献して参ります。

2. グリーンファイナンスフレームワーク

本フレームワークは、第三者評価機関である株式会社日本格付研究所からのセカンド・パーティ・オピニオンを取得しており、国際資本市場協会 (ICMA: International Capital Market Association) が公表する「グリーンボンド原則 2021 (GBP)」とローンマーケットアソシエーション (LMA)、アジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション (APLMA)、ローン・シンジケート・アソシエーション (LSTA) による「グリーンローン原則 2023 (GLP)」への適合性を確認しております。グリーンファイナンスは、本フレームワークに基づいて実行されます。

2.1 調達資金の用途

グリーンファイナンスで調達した資金は、以下の適格クライテリアを満たす MUFG 本館の建設関連資金へのファイナンス又はリファイナンスに充当されます。

グリーンボンド/ローン 原則プロジェクト カテゴリー	適格クライテリア
グリーンビルディング (環境目標: 気候変動 の緩和)	以下のいずれかの認証をグリーンファイナンスの実行日から遡り過去 36 ヶ月以内に取得又は将来取得予定の物件、若しくは以下のいずれかの第三者認証が有効期間内である物件のうち、当該グリーンファイナンス実行日から遡り過去 36 ヶ月以内に竣工された物件 <ul style="list-style-type: none">➤ LEED: Platinum 又は Gold➤ CASBEE: S ランク又は A ランク➤ ZEB 認証: ZEB, Nearly ZEB, ZEB Ready, ZEB Oriented

2.2 プロジェクトの評価および選定プロセス

評価および選定のプロセスに関しては、MUFG 総務部が適格クライテリアに適合していることを確認し、適格性の評価及び選定に対する最終判断は MUFG 財務企画部 CFO 室が行います。

なお、MUFG では、関連する法令や国際的なプラクティスに基づき環境や社会へ適切な対応を実施し、潜在的にネガティブな環境面・社会面の影響に配慮しています。

2.3 調達資金の管理

MUFG は三菱 UFJ 銀行の社内経費・投資管理システムを使用して適格グリーンプロジェクトへの資金の充当状況を少なくとも 1 年に 1 回モニタリングおよび追跡管理します。

ファイナンスを実行するのは MUFG ですが、調達された資金は MUFG の全額出資子会社である三菱 UFJ 銀行に融資されます。MUFG は MUFG と三菱 UFJ 銀行の間で締結された融資契約に基づき、ファイナンスによって調達資金を受け取るのとほぼ同時に、それと同額の資金を三菱 UFJ 銀行に送金します。調達した資金の全額が適格グリーンプロジェクトに充当されるまで、三菱 UFJ 銀行は未充当額と同額を現金、現金同等物、又は短期金融資産等の安全性及び流動性の高い有価証券にて管理・運用する予定です。

2.4 レポーティング

2.4.1 資金充当状況レポーティング

MUFG は少なくとも全額が充当されるまで 1 年毎に、また、重要な変化がある場合には適時に、以下に関する情報を提供します。

- 調達資金の充当額
- 未充当額および充当予定時期
- リファイナンスを行う場合には、調達資金における新規とリファイナンスの割合

資金充当状況レポーティングは、年度末(3月)を基準とし、3ヶ月以内(6月まで)に MUFG のウェブサイト*³ で開示(ローンの場合は貸し手に対して報告)します。

2.4.2 インパクト・レポーティング

MUFG は以下の内容を含むインパクト・レポーティングをファイナンス残高が残存する限り、実務上可能な範囲で、MUFG のウェブサイト*³にて毎年実施(ローンの場合は貸し手に対して報告)します。

- (竣工前)MUFG 本館における CO₂ 排出削減量
- (竣工後)MUFG 本館における CO₂ 排出量
- グリーンビルディング認証の取得状況(取得又は取得予定時期・認証の種類・水準)

以上

³ レポーティングは <https://www.mufg.jp/index.html> において開示予定です。